

～令和8年度高病原性鳥インフルエンザ防疫セミナー～

高病原性鳥インフルエンザ 未発生に向けた取組

令和8年8月28日（金）

広島県農林水産局畜産課

令和7年度は、令和6年度に引き続き、HPAⅠが

2年連続で県内**未発生**でした。

様々な対策に取り組んでいただき、

本当に**ありがとうございました。**

- 1 取組の振り返り（R7年度）
- 2 発生予防の取組（R8年度）
- 3 構造分析（発生予防）
- 4 補足とお願い

- 1 取組の振り返り（R7年度）
- 2 発生予防の取組（R8年度）
- 3 構造分析（発生予防）
- 4 補足とお願い

取組の振り返り（R7年度）

令和6年度に行った発生予防対策を振り返り、各農場における管理体制の強化及び当該シーズンの国内発生の疫学分析・情報収集に基づく対策の強化並びに切れ目ない注意喚起を実施した。

【取組テーマ】

各農場の管理体制の再点検・強化

取組の振り返り（R7年度）

1 当初対策（4月～9月：シーズン前）

（1）農場の**管理体制の再点検**

- **対策研修会**及び**自己評価**の実施による各農場の改善点の明確化
- 各農場の**対策の不足部分の強化**（人/野生動物/塵埃）
- 農場へのウイルスの**侵入リスクに応じた**衛生管理体制
- 年末年始等の休暇を見据えた人員配置

（2）**飼養衛生管理基準の遵守徹底**

- 従業員全員の衛生意識の維持・向上・共有
- 繰り返し研修、衛生管理の相互チェック
- 野鳥・野生動物対策の実施（**餌場の除去**、忌避対策）

（3）**消毒計画**の見直し及び確実な履行（場所、頻度の管理）

取組の振り返り（R7年度）

2 強化対策（10月～3月）

- （1）防疫連絡会議による重点取組項目の確認
- （2）緊急防疫対策会議による重点取組の強化
 - ・過去発生地域（大臣指定地域）における再発防止対策の強化
 - ・管理体制の再点検、衛生意識の維持、消毒計画の確実な履行
- （3）国内発生状況に応じた対策の実施

3 注意喚起（3月～4月）

- ・渡り鳥の北帰行対応、野生動物誘引防止対策

令和7年度の発生予防の取組

【上半期】

【下半期】

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月～

対策実例
研修会

対策振り返り
(弱点認識)

養鶏場の対策強化
(各農場で弱点の解消)

防疫連絡
会議

基本行動研修会(7力国)

消石灰配布

消毒計画作成・見直し・実施

先手対策

情報収集
状況分析

状況に応じた
体制強化

令和7年度の発生予防の取組の評価

自農場の対策の振り返りにより弱点を認識し、対策の不足部分の強化を図ったこと、及び、農場を含むリアルタイムの現場共有したことが、県内全体の衛生意識の強化につながり、本県の発生リスクを低減できたのではないかな。



令和8年度は

令和7年度の対策を基本に、各農場において
出来ている部分の継続 と 不足している部分
(人、物、野鳥、塵埃対策) を更に強化する。

発生予防の取組（R8年度）

施設整備などのハード面の強化に加え、各農場の衛生管理リスクの改善強化などソフト面の衛生対策を充実させ、各農場におけるウイルス侵入防止対策を強化する。

【取組テーマ】 各農場の管理体制の更なる強化

ア 施設整備・点検

- ・細霧装置等の設置による塵埃対策強化や施設の定期的点検

イ 管理体制の再点検

- ・対策研修会・基本行動研修会による関係者（新人・配置換え職員・技能実習生など）の衛生水準の向上
- ・各農場の衛生対策の課題部分の更なる強化
（人、物、野生動物、塵埃によるウイルス侵入リスクの管理）
- ・各農場の少人数体制時の飼養衛生管理基準の水準・役割分担の確認
- ・消毒計画の継続強化 等

令和8年度の発生予防の取組

【上半期】

【下半期】

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月～

R7
全国の発生状況分析
対策の振り返り

対策
研修会

セミナー
開催

防疫連絡
会議

農場の管理体制の更なる強化

- ◆施設整備・点検（塵埃、野生動物等）
- ◆管理体制の再点検

基本行動研修会(8力国)

消石灰配布

消毒計画の更新・実行

先手対策

情報収集
状況分析

状況に応じた
体制強化

本日の内容

- 1 取組の振り返り（R7年度）
- 2 R8年度の発生予防の取組
- 3 構造分析（発生予防）
- 4 補足とお願い

構造分析（発生予防）

未発生とは・・・ 運？ 偶然？
どうしたら達成？ どう説明できるだろう？

発生

=

内部要因リスク（農場への侵入）

×

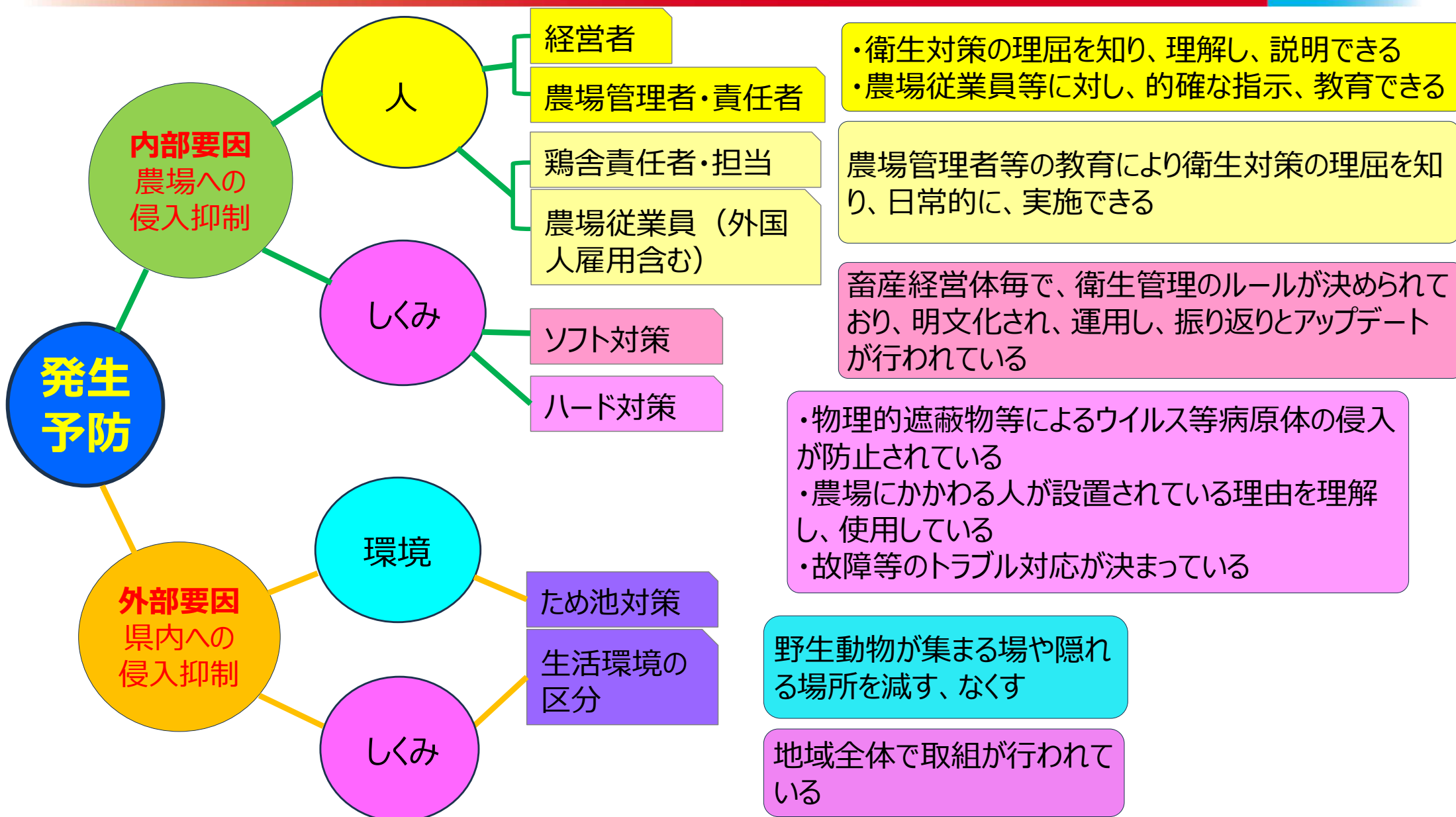
外部要因リスク（県内への侵入）

農場だけでは困難

農場で出来る！

リスクの最小化により、未発生を目指す！！

構造分析（発生予防）



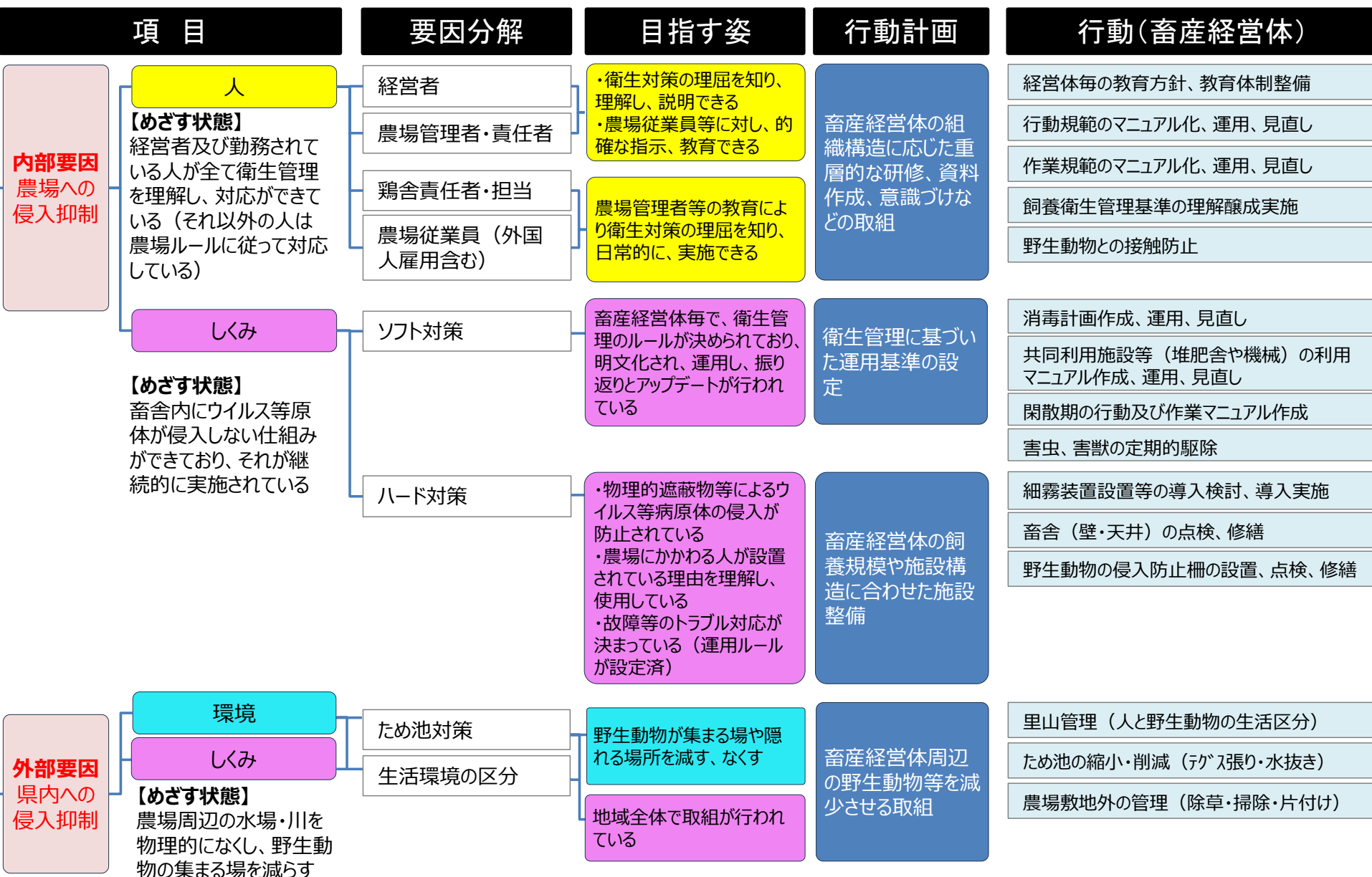
構造分析（発生予防）

※新たな知見に応じ随時更新

リスクの
最小化に
より未発
生を目指
す

【めざす状態】
○環境中のウ
イルス等病原
体を減らす取
組みを行って
おり

○畜産経営体
において
①ウイルス等
病原体の侵入
が防止されて
おり
②ウイルス等
病原体の感染
経路が遮断さ
れており
③飼養してい
る家畜が健康
に飼育されて
いる状態

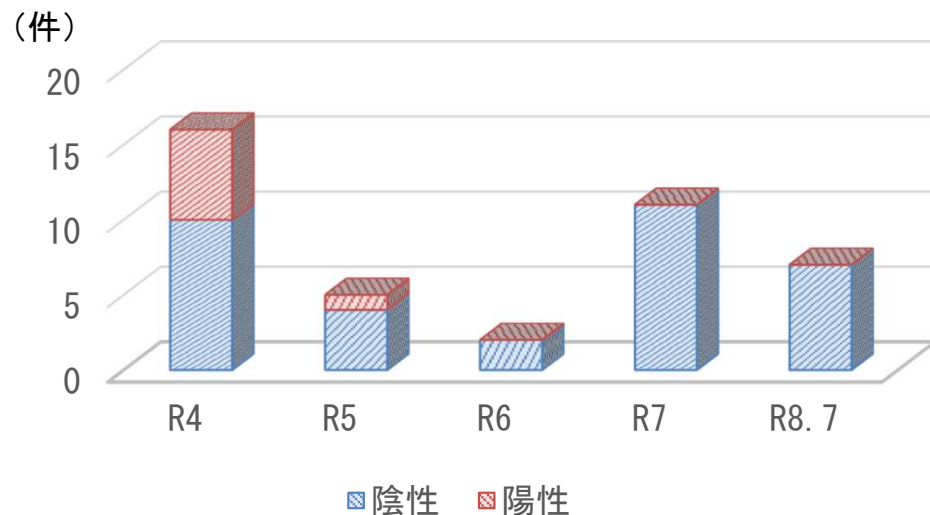


本日の内容

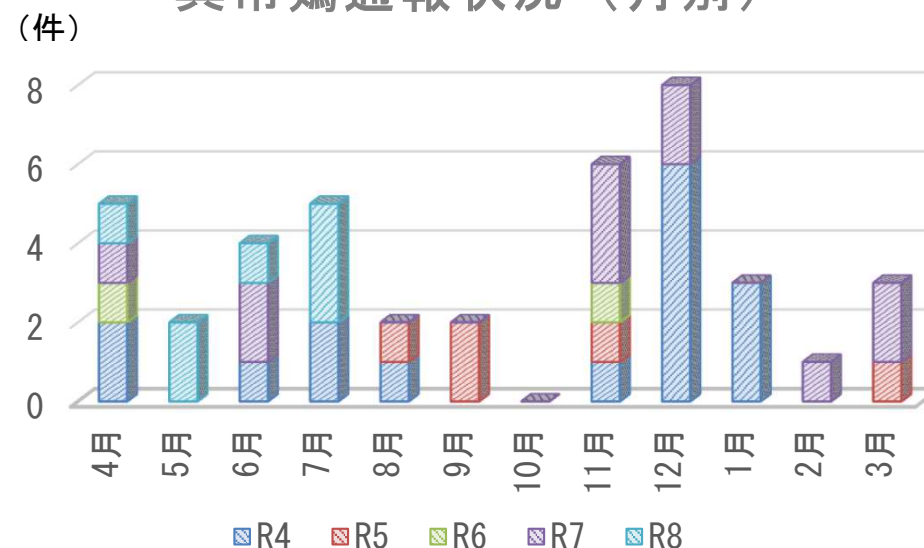
- 1 取組の振り返り（R7年度）
- 2 R8年度の発生予防の取組
- 3 構造分析（発生予防）
- 4 補足とお願い

補足－異常鶏の通報状況（広島県）

異常鶏通報状況（年度別）



異常鶏通報状況（月別）



【通報理由】 死亡羽数の増加、通常とは異なる死亡状況、産卵率の低下など

【原因】 インフルエンザ、獣害、暑熱、他疾病など

- 通報ありがとうございます！！
- 少しでも通常と違う状況があったら、夏でもためらわず連絡してください。
- 通報の積み重ねが早期発見につながると考えています。

- シーズンまで（9月末）に、**農場の管理体制の再点検**を
（自農場のリスクを把握し、作業・対策の優先順位をつける）



農場へのウイルスの**侵入リスクレベル**（国内発生/隣接県での発生など）に応じた**衛生管理体制**や**年末年始等**の休暇時期を見据えた**人員配置**が整理されていますか？

飼養衛生管理基準の水準の時点確認
従業員一人一人への共有

これからも
関係者一丸となって、
広島県の養鶏財産を
守りぬくために ！

県は、生産者の皆様が、自農場の対策を分析し、
実行する取組を支援します。

広く情報収集とリアルタイムの現場共有による
発生リスクの最小化に取り組んでまいります。